

# ミャンマー国人身取引被害者自立支援のための能力向上プロジェクト

No.17/ 2013 年 12 月 16 日

## ヤンゴンからミンガラーパー

前号では3つのパイロット活動の進捗状況をお伝えしました。今回はインフォメーションセンターについてご報告します。

### 社会福祉訓練校の建物内にインフォメーションセンターを設置



インフォメーションセンターが設置される建物

パイロット活動の中で、最も規模の大きい活動となるインフォメーションセンターの開設準備が始まっています。センターは現在社会福祉訓練校の事務所がある建物内の1室に設置することになりました。長期間使用していなかった部屋なので、来春のオープニングに間に合うように壁塗りなどの補修をする必要があります。また、支援提供者のためのリソーススペースも一緒に設置するため、各種機器や資料の準備も同時に進めていくことになります。

センターの正式名は、人身取引被害者のためのインフォメーションセンター（Information Center for Trafficked Persons）。設置目的は被害者に必要な情報やサービスを提供し、連携先にも丁寧に繋ぎ、被害者のニーズにそった支援を継続していくことです。救助されて政府間の公式ルートで帰還した被害者だけでなく、自分で帰還した人や被害者の家族など、求めに応じ広い対象者を支援していくことにしています。

ミャンマーの場合、帰還時の公的シェルターでの滞在は3、4日と短期化しており、その間にできる支援も限

られています。従って、帰還後、被害者が支援を必要だと感じたときにいつでもアクセスできるセンターがあり、必要な情報やサービスを得ることができるのは、新しい試みであり、被害者の自立支援に大きく貢献できる可能性を持っています。

センターでは、開設前に必要とされる情報を収集し、NGOも含むシェルター、医療、警察、職業訓練などの連携先とのネットワークづくりの準備を進めて行く予定です。活動が軌道に乗れば、一人ひとりのケースを扱っていく中で、さらに情報がセンターに集まり、支援のネットワークの中で足りない部分も明確になっていくことでしょう。センターでは被害者支援活動データを蓄積・分析して人身取引対策の見直しや新しいサービスの開発などに活かしていくことも重要な機能の一つと位置付けています。

センター内に開設されるリソーススペースでは、支援提供者に必要な情報や資料を収集し提供していきます。研修実施の依頼があった場合、プロジェクトで養成したトレーナーのネットワークを活用できる点も本センターの強みです。

その他にもインフォメーションセンターの広報用パンフレットやウェブサイトの準備、必要なフォーム類の作成やデータの集計方法の確立、各連携先との連携方法の確認など、さまざまな準備が必要です。時間の制約がある中、可能な範囲で準備を進め、あとは走りながら機能を少しずつ充実させていくことができればと考えています。



センター設置予定の部屋で担当スタッフが開設準備中

## インフォメーションセンターの専任スタッフ2名が配置されました（12月1日）

社会福祉局（DSW）からセンターの専任スタッフとして2名が社会福祉訓練校に配置されました。9月のネピドー出張時に、センターのスタッフとして必要な資質についてDSWと協議し、支援提供者としての資質に優れている人、つまりしっかり人の話が聴け、被害者支援に情熱をもっている人、その上で、カウンセリングができ、連携先との関係づくりや交渉ができ、簡単なパソコンの入力やデータ管理ができる人が必要と話し合っていました。

その基準で選ばれた二人のスタッフ、マンダレーの女性のための職業訓練校のニーニーウィンさん、ヤンゴンの女性ケアセンターのチョースーウィンさんをご紹介します。

### ニーニーウィンさん



1990年にDSWに入り、それ以来女兒のための保護施設、男児のための保護施設、保育所などの職員、最後は人身取引被害者のシェルターでもある女性のための職業訓練校の副校長として5年半と、社会福祉の現場で長く経験を積んできた方です。プロジェクトが実施したトレーナー養成研修の受講生でもあり、マンダレーの他のトレーナーと共にトライアル研修を実施したり、パイロット活動の一つとして被害者の集まりを実施してきました。

新しいセンターの職員に抜擢され、とても責任を感じていると話してくれました。どのくらい自分が力を発揮できるかは分からないが、人と話すのが大好きで、

誰とでも心を開いて話すことができるので不安はない、センターが機能するよう貢献したいと考えているそうです。

被害者のニーズに合う様々な活動を実施していきたい、被害者の自立に向けて支援していきたい、また被害者の集まりを主催してみたい、その中で互いに力をもらいたい状況を見てきたので、被害者が立ち寄って一緒に話し合うことができるセンターにしたいと話してくれました。

困難なケースの支援で疲れたときは、家でゆったりとした音楽を聴いてリラックスしているそうです。

### チョースーウィンさん



1999年にDSWに入り、やはり彼女も幼稚園、ムセの人身取引被害者専用シェルター、女性ケアセンターと現場で働いてきた方です。

ニーニーウィンさんと比べると、まだ人身取引の被害者の支援の経験は少ないので、これからしっかり学んで行きたいと語ってくれました。困難を抱えている人たちの支援をしたい、情報を提供することで被害者が自立していけるように継続して支援していきたいと話しています。

チョースーウィンさんはパソコンもできそうで、配置後も時間のある時は、社会福祉訓練校のパソコンクラスに参加しています。

一番の息抜きは、休日に一人息子と甥や姪など子どもたちを引き連れて、パゴダ参りなどに出かけることだそうです。

